

令和五年度 奈良県知事賞

地方税

宇陀高等学校 一年 北谷 宏天

私はこの作文を書くにあたって、身近な奈良県の税金について調べてみる事にしました。インターネットで奈良県のホームページを見ていくと、びっくりする様な内容が目に飛び込んできました。それは、「奈良県の地方消費税収は…全国 47 位」というものです。私はこれを見て、「税収が全国最下位ってどういうこと？」と驚いてしまいました。

そもそも地方消費税は、私達が買い物などで支払っている十パーセントの消費税の内の二・二パーセント分のことで、県民が納めた地方消費税がその県内の道路や下水道の整備、医療や福祉の充実、小・中・高等学校教育、環境保護事業などの財源となるというものです。自分達の生活に直接関わる公共事業の財源になっているという事です。その様な大事な財源が乏しいのは大問題だと思います。

なぜこの様な問題が起きているのかももう少し調べると、奈良県民の消費支出は全国二十位であり、決して消費自体が少ないわけではないのです。しかし、奈良県民の県外での購入割合は、全国一位で、この事が県の消費税収最下位の原因の一つになっているという事なのです。私の家族が、買い物するのは、県内の店が多いのですが、ネット通販で買い物する事も増えてきています。そうすると、通販会社が本社を置く都市部の消費税収になることが問題となって、消費地への消費税収の配分を調整する様になっているそうです。

周囲の人達の話を知ると、私の住む山間地は、三重県に接しているため、そちらに買い物に行く人が多かったり、通勤や通学で大阪に行く人達は、大阪の大規模な店舗で買い物を済ませる事も多い様です。

こうして税金について、調べたり、考えたりしてみると、単に買い物を楽しむとか、品揃えの豊富な商業施設で便利に買い物をする事だけを考えずに、地域の店に消費税を支払うことが、自分達の地域の税収となって、自分達に必要な公共事業になって活用されるという視点も忘れてはいけな

いと思いました。